

～データを踏まえて未来を構想し、探究し、行動する科学技術人材の育成～

<コンテストに応募しよう>

SSH 指定校では、生徒が各種コンテストに積極的に参加することが期待されています。コンテストに応募するメリットは3つあります。

1. 学びのモチベーションが上がる

部活動でも、大会前は練習に気合が入り、結果として大きく実力が伸びることがあります。コンテスト出場を目指すことでより学びへの姿勢が積極的になり、結果として学びが深くなります。

2. 他校の生徒と切磋琢磨できる

全国には様々な分野に異彩を放つ高校生がたくさんいます。コンテストに出場することで、各地の優秀な同世代の生徒を知り、彼らから刺激を受けることができます。

3. 実力の「エビデンス」になる

皆さんはDSやRAPの授業の際に、「根拠となるデータ」「エビデンス（証拠）」の重要性を学んでいると思います。各種コンテストへの出場や入賞は、皆さんの学びの実績を第三者（大学など）に示すときの、客観的でとても強い根拠となります。

<どんなコンテストがあるの？>

文科省がSSH指定校に出場を呼びかけているコンテストには次の5つです。

- グローバルサイエンスキャンパス
- アジアサイエンスキャンプ
- 女子中高生の理系進路選択支援プログラム
- 国際科学技術コンテスト（オリンピック）
- 科学の甲子園

<グローバルサイエンスキャンパス>

大学が、将来グローバルに活躍する科学技術人材を育てるために、高校生を募集して高度な理数系教育を行うプログラムです。全国で11大学開講しており、特に広

島大学は募集人員も350名と多く、地理的にも近いため、応募しやすいプログラムです。

ホップステージ（講義聴講、レポート提出）350名



ステップステージ（セミナー、自主課題提出）60名



ジャンプステージ（大学研究室での実験等）15名

参加者は自分の研究についての課題を提出します。また国際科学技術コンテストなど他のコンテストへの出場も期待されています。

昨年南高からは1年生2名が参加し、ステップステージまで進みました。（校内締切5月14日）

<国際科学技術コンテスト>

「物理チャレンジ」「数学オリンピック」「科学グランプリ」「生物学オリンピック」「地理オリンピック」「情報オリンピック」等の総称です。例えば物理チャレンジは次のステップを踏みます。

第1チャレンジ：実験課題レポート、理論問題コンテスト

↓100名が選抜

第2チャレンジ：合宿形式の理論と実験のコンテスト

何年生が出場してもかまいませんが、特に2年生は授業の進度も進み、チャレンジしやすいのではないのでしょうか。（それぞれ5～6月締切、地理と数学は秋）

<その他のおすすめコンテスト>

特に個人で研究を進めている人、科学部員などにお勧めなのは世界大会 ISEF（国際科学技術フェア）に通じる高校生科学技術チャレンジ（JSEC）と日本学生科学賞（JSSA）です。特にJSSAは県大会が9～10月に開かれ、締切も早いので、申し込みたい人は早めに準備しましょう。

また秋には6人1組で戦う科学の甲子園もあります。皆さんの主体的な参加に期待しています！